

Data Report

高反発ドライバーの使用禁止に関する調査

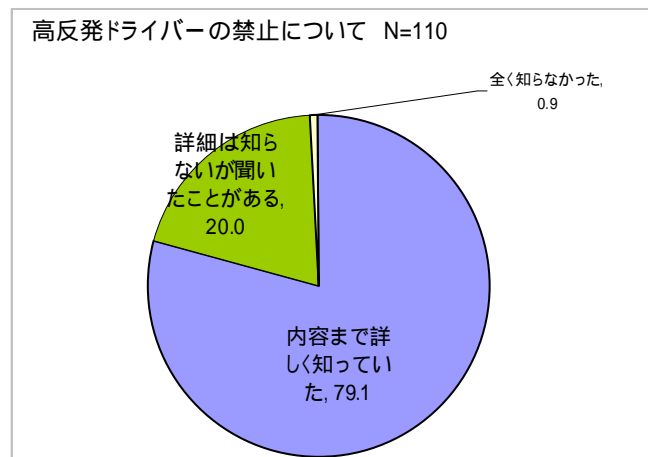
約 4 割のコースが既に方針決定

課題はチェック方法

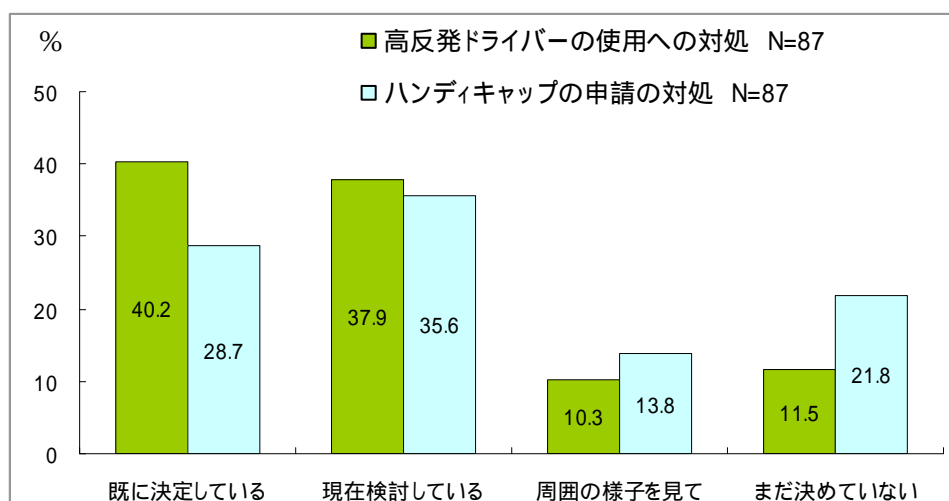
2007 年 10 月 15 日

2006 年以降、PGA(日本プロゴルフ協会)の競技において高反発ドライバーの使用が禁止され、PGAの競技に参加しない一般のアマチュアゴルファーにも2008年以降、このルールが適用されることが決定している。

ことについて道内ゴルフ場(110コース)に尋ねたところ、「内容まで詳しく知っていた」とする回答が8割(79.1%)を占める一方、「詳細は知らないが聞いたことがある」という回答も2割あり、「全く知らなかった」という回答も1票あった。



高反発ドライバーの使用禁止について内容まで詳しく知っていた回答者に、高反発ドライバーの使用禁止とハンディキャップの申請に関する対処を尋ねると、下図の通りとなった。

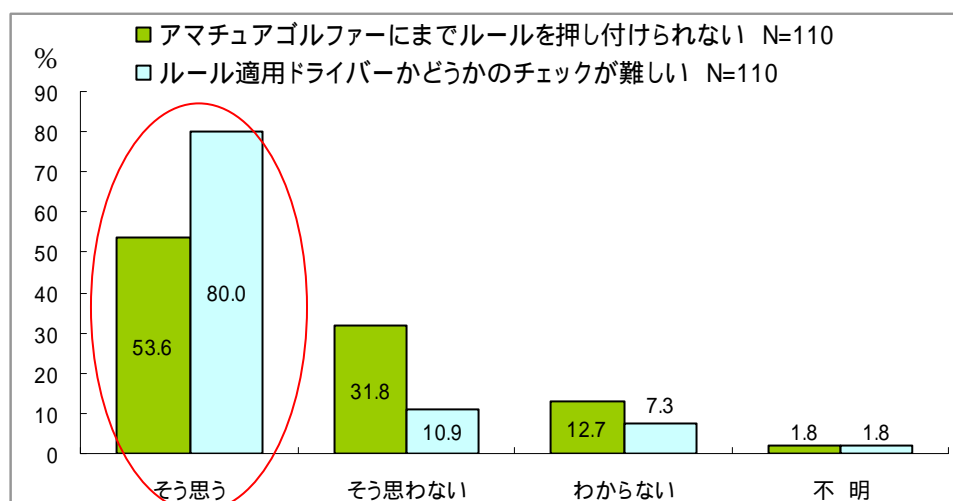


高反発ドライバーの使用禁止についてみると、「既に決定している」との回答が40.2%、「現在検討している」という回答は37.9%で、合わせて8割(78.1%)近いコースでこのテーマに関して何らかの対処をしている。しかし約2割のコースが様子を見ている状況である。また、「現在検討している」という場合、結論を出す時期は、年内中と来年3月までが半々となった。

一方、ハンディキャップの申請に関しては、「既に決定している」との回答が28.7%、「現在検討している」という回答は35.6%で、6割以上のコースでこのテーマに関して何らかの対処をしているものの、約3割のコースが様子を見ている状況である。

このように、高反発ドライバーの使用禁止とそれに伴うハンディキャップの申請ではその対処に違いが見られる。

これら二つの問題に対する対処の違いを説明するデータが以下のものである。全対象者に「アマチュアゴルファーにまでルールを押し付けられない」という意見と「ルール適用ドライバーかどうかのチェックが難しい」という意見に対する賛否を尋ねた。



「アマチュアゴルファーにまでルールを押し付けられない」という意見に対しては、「そう思う」という回答が53.6%、一方「ルール適用ドライバーかどうかのチェックが難しい」という意見に対しては80.0%と大多数が認めており、適用ドライバーかどうかのチェックの難しさを問題視する結果となった。

これら高反発ドライバーの使用禁止に関して多くのゴルフ場は「規則だから、守るのは当たり前」としながらも、適用ドライバーかどうかのチェックについては、「ゴルファーのマナーや意識に頼らざるを得ない」、だから「ゴルファーに周知徹底するしかない」という考えが大宗を占める結果となっている。